

# あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第55号 2021年3月15日発行

## ～野菜の漢字クイズ～

答は、本ページの下にあります

次の漢字は、野菜を表しています。さて、なんと読むでしょう。

- ① 筍            ② 花菜            ③ 独活  
④ 竜鬚菜      ⑤ 蕨            ⑥ 落の臺

<ヒント> 次の写真のどれかです。



<答>

- ① タケノコ、②なのはな、③ウド、④アスパラガス、⑤わらび、⑥ふきのとう

★本会報はカラーでご覧になれます。

当協議会ホームページの <https://abiko-chisan.com/newsletter>

または QR コードから、会報「第55号」をお読みください。



# 1. コロナ禍の協議会活動を顧みて

総務部会長 小松信彦

令和2年3月、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から協議会活動の内、①学校給食の地元農産物の供給業務②援農ボランティア派遣業務③各種イベントの開催が中止され、また、全国的にも4月には緊急事態宣言が出され、5月31日まで続きました。協議会発足以来、会員の皆様にご参加いただき毎年実施してきた定時総会も、第17回総会は集会によらない総会（書面総会）として開催成立いたしました、当然総会後の懇談会も中止となりました。その後、6月1日から市内の小中学校が再開され、当協議会の①学校給食の地元農産物の供給業務②援農ボランティア派遣業務を再開することができることとなりました。しかしながら、市民の方々との懇親の場である「採って食べよう夏・冬の野菜イベント」、「料理教室」、「農業まつり」また、受入れ農家と援農ボランティア会員間の「情報交換会」、会員相互の最大の懇親会「忘年会」、例年開催してきたイベントである「ちびっこ餅つき大会」などは多人数の集会となるなどの理由から止む無く開催中止を決定しました。このような状況下にも関わらず、援農ボランティア活動は、受入れ農家・参加ボランティアの皆様のおかげで6月度の再開以来、毎月順調に活動を続けております。11月には養成講座が開かれ14名の方が受講されました。特に、本年度の新しい援農ボランティアは、第17期生と体験終了者で16名を迎えることができ、12月度から熱心に活動されております。新年度を迎える4月には、国内においてもワクチンの投与が開始されるなどの報道もあり、一日も早く平常の状態に戻ってほしいと痛感しております。ともあれ当協議会の活動は、齊藤会長がホームページで語っている通り、ボランティアの目標を変えることなく、状況にあった方法を模索して「継続は力なり」をモットーに実施していく所存です。会員の皆様にもおかれましては今しばらくご自愛の上、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

# 2. 農福連携について

エコ農産物部会 今村直美

「わが家のやおやさん 風の色」として就農して以来、「地域に密着！」ということとはとても大事にしていたコンセプトでした。風の色の色には援農ボランティアの高齢者の方々、ひきこもり気味だけれども畑に手伝いに来てくれる若者、子育て中のお母さんと赤ちゃんなど様々な方がいらしてくださり、地域の構成員が多様であることを実感しました。その延長線上に障がい者の方々もおり、同じ地域に住む者同士力を合わせることができないかという思いから

現在、帝人ソレイコ株式会社（帝人株式会社の特例子会社／我孫子市布佐）で、障がい者の方々と一緒に野菜や食用バラ、そして胡蝶蘭の栽培をしています。今日は農福連携について少しお話をさせていただきます。



「農福連携」…その言葉通り、「農業サイドと福祉サイドが連携して、農業分野で障がい者の働く場所をつくらうとする取組です。2010年代後半からこの言葉が使われるようになり、現在は「ノウフク」というロゴマークをよく見かけるようになりました。さらに2019年からは障がい者が生産工程で携わった農産物や加工品に対して「ノウフクJAS」の認定制度も始まりました。（一般社団法人農福連携協会）

農業と障がい者の相性はとてもいいと言われており、この言葉ができる以前から取り組まれてきたことですが、あらためて以下に農福連携の取組の形、そしてメリットを障がい者側からと農業者側から考えてみたいとおもいます。



### 1. 農福連携の取組は、5つのグループに分けることができます。

- ①障害者作業施設が農作業を請負う形で、障がい者に職員が同行して農家や農業法人で農作業をする。
- ②障害者作業施設が自分たちで農業に取り組んだり、農業法人を立ち上げ併設する。
- ③農業法人が障がい者を雇用してり、障害者作業施設を立ち上げ併設する。
- ④企業が特例子会社を立ち上げ、農業分野で障がい者を雇用する。
- ⑤病院やNPO法人などが障がい者の園芸療法の一環で農業に取り組む

様々なスタイルで農福連携に取り組むことが可能であることがわかりますね！

### 2. 障がい者側からみた連携のメリット

- ・農産物を育てるという仕事の過程が理解しやすい、成長の様子や収穫は喜びに！
- ・体を動かすことは文句なしに気持ちがいい！
- ・農作業は多種多様な作業の積み重ねなので、障がいの特性に合った作業を見つけやすい！

＊障がい者は人口の約8%、その内で就労できている方は約10%とのことから、その潜在的労働力は大きい！

＊障がい者の就労による賃金向上は、いずれ地域の持続可能性SDGsにも繋がる。

### 3. 農業者側からみた連携のメリット

- ・耕作放棄地が増加するなか、福祉作業施設などが新たな農地の引き受け手として期待される。
- ・農家の高齢化が進むなか、新たな労働力として期待できる！

＊他に、企業から見た連携では、障がい者雇用率をクリアするために、農業分野への進出は新たな大きなフィールドとして期待される。

メリットばかりでデメリットはないのか？という疑問が湧いてくるかもしれませんが、もちろん障がいの特性により課題は色々とあるでしょう。しかしながら、地域のあらゆる人が生き生きと暮らし、大事な農地を守ることに繋がる可能性が大きいことは疑いがありません。

少なくとも障がい者の方たちと一緒に作業をしている私は、農福連携に取り組んで農作業の一つ一つの見直しや作業の安全性や効率性を考えることができ、さらには畑仕事を共にするメンバーが増えたことはそれだけで大きな喜びに繋がりました。

農福連携のスタイルは多様にありますので、持続可能な社会をめざして、まずは最初の一步をお互いから踏み出すことをしてみませんか。

### 3. 法人会員紹介 エヌケイサービス

#### - Amenity Creation in Facilities and Community -

株式会社エヌケイサービス 代表取締役社長 中井達也

「我孫子の農家さんの美味しい野菜を紹介する動画とパンフレットを作ってほしい」今から5年前、「あびこ農力発見プロジェクト」の“あびこ型「地産地消」推進協議会”のスタッフから打診された。弊社はビルメンテナンスが生業ではあるが、以前より水の館プラネタリウムの番組作成や、アビシルベの運営を併せ行っている。動画やパンフレットの制作の話はこうしたところでの経験や実績から舞い込んだようだ。

経営者としては単純にうれしい反面、責任も実に大きい。なにしろ今回の企画、星野市長が熱い思いで進めている水の館リニューアルと我孫子農産物直売所あびこん移転のPRを兼ねている。大丈夫だろうか・・・。「大変な仕事だけど途中で逃げないでほしい」と言われ、咄嗟に思った。(やってやる！)

創業(1987年)時は、ビルクリーニングが仕事の中心だった。当時の自分たちには、日々過酷な業務が舞い込んでいた。落とさきれないワックス(歴史的堆積物と呼んでいる)の剥離作業に予定の3倍の時間がかかってしまったこと、「ついでにこれもサービス(タダ)で頼むよ」と言われた作業で徹夜になってしまったなどの苦労は多々あったが、やり遂げた後の達成感がよみがえる。

株式会社エヌケイサービス 千葉県我孫子市柴崎台 1-7-8

<https://www.nkserve.com/>

かくして、企画案や構成台本を幾度と提出しながら、細かなイメージまで出来上がった段階で契約に至った。ここからの行程は実に楽しく、有意義なものだった。美味しく安全安心な農産物を作るための工夫や努力が伝わってくるのだ。何しろ、試してすぐ成果が出るものではない、当然ながら天候にも左右されるわけだ。そんな苦労話も聞かせてもらった。採れたて野菜のおすそ分けも頂いた。そして何より、素敵な笑顔をたくさん撮らせてもらったのだ。この企画へのお声掛けに感謝している。

昨年、新型コロナにより私たちの生活は大きく変わってしまった。多くの業種が大きなダメージを受け、それは現在も続いている。こんな時、みんなが少しでも元気になれる取り組みを・・・と作ったのが、市内飲食店の方々がリレー出演した「明日があるさ」のYouTube動画だ。皆さん、すごく大変な時期の中、元気いっぱい歌ってくれた。どうやって作ったのか問い合わせも多かったが、スマホで自撮りしてもらい、ラインで送ってもらった動画をつないだものだ。「イベントが開催できないけれど、来年につなげたい・・・」我孫子市和太鼓まつりの動画も実行委員のそんな熱意に押され制作した。

これからも人とのつながりを大切に、弊社らしい地域貢献を進めていこうと思う。



アビシルベ (指定管理者として魅力的な情報を発信)



水の館 (プラネタリウムの運営)

# 4. 部会のご紹介

## 1. 食育交流部会

食育交流部会 須藤一宏

地元の農家と我孫子の農産物の良さを多くの市民の方々に知っていただき、相互に理解を深めながら、とのに楽しく健康に過ごせるように活動しています。

「採って食べようイベント」は、年2回春と秋にそれぞれ一度開催しています、農家さんの畑で自分達で収穫して、皆で一緒に食事を頂く体験イベントです。採りたての旬の我孫子野菜を食べることで新しい発見があるはずです。

年に2度の料理教室は市内のイタリアンのシェフ、和食の料理長さん、食の研究者さん達を講師としてお招きして、市内の旬の野菜を利用したメニュー・レシピを実体験できます。皆様の日々の食卓に組み入れて見ましょう。

地域のお祭りやイベントにも出店して、地元野菜をより多くのお客様に味わって頂く機会をふやしていきたいとおもいます。

コロナ禍ということで従前の規模・内容で活動することは難しいと思われませんが、形を変えながら市民の方々が喜んでいただける様に取り組んでまいります。そしてこの様の交流活動をともにしていただけるメンバーを募集中です。多くの皆様のご参加、お待ちしております。



天王台北口のお祭りに参加

## 2. 広報部会

広報部会 若王子範文

### ①会報は年3回発行（7月、11月、3月）

会報は毎月定例部会を開き、編集会議としている目次作りから始まり、目次が決まると原稿依頼・原稿の纏め・印刷の依頼・会員への発送等の手順が有ります。貴方はどの担当になりますか？新しい企画を？

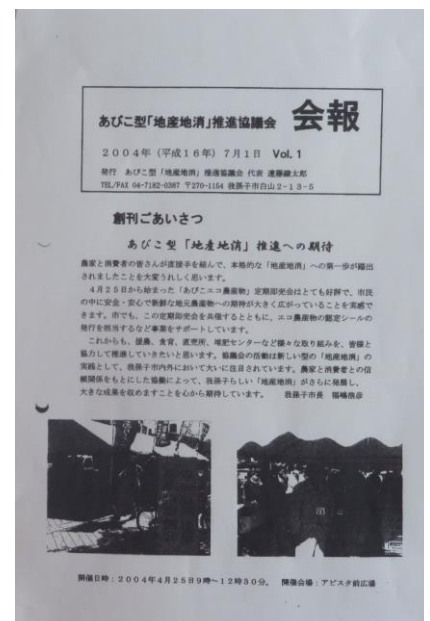
### ②ホームページホームページは「見る・買う」「ふれあう・体験する」「広く知る」の項目を取材し掲載しています。

協議会開催の各イベントの紹介、報告、協議会関連の記事（お知らせ、イベントレポート等）の作成フェイスブックによる写真投稿などの運営管理をしています。

### ③関係団体との交流・イベント参加

- 消費生活展：令和2年度で55回となる「我孫子市消費生活展」を例年2月に開催しています。全体テーマを決めそして各団体テーマで各団体4枚のパネルを作成します。
- 市民のチカラまつり：我孫子市内の市民団体と一つのテーマで作り上げるイベントその中で独自の展示参加をしています。
- 農業まつり・ちびっ子餅つき大会：当協議会が関連している「農業まつり」ではブースで“パネル展示とクイズ”又主催の「ちびっ子餅つき大会」は“磯辺焼き販売”をしています。

### ④会報・ホームページ・イベントの参加と1年を通して活動しています。多くの地産地消の皆さん広報活動に参加してください。



会報1号表紙

# 5. 第45回我孫子市消費生活パネル展

広報部会 若王子範文

今年の消費生活展実行委員会は前年度の反省を3月に行い、4月の第1回会議から次の参加団体の確認し、次のメインテーマが決められてゆく（例年：会場は市民プラザ、日程は2月の第一土・日）、だが今年度は新型コロナウイルスの影響で3月・4月・5月の例会は中止され第1回会議が6月になってしまった。7月・8月・9月・10月に実行委員会を開催しその後11月・12月は休会とし1月の第6回会議で細部を詰め、令和3年2月の開催となりました。

第1回実行委員会では、例年と違いますが消費生活展を今年度は「開催するか、開催するとすればどのように」が最初の議題となり、議論を重ねた結果、消費生活展の開催はパネル展示のみとし場所は「アビスタのストリート」で、日程は令和3年2月2日(火)～15日(月)の2週間の開催することになり、今年度のメインテーマについて“第45回我孫子市消費生活パネル展”とするなど骨子が決まりました。

第2回実行委員会以降はパネルの展示方法として各団体のパネルを4枚（前回第44回のもの）をA1のアルミフレームのパネルに納めることに決定、又「新型コロナウイルス感染対策コーナー」として、A2サイズ2枚を上下に展示する、チラシ作成内容の確認、開催期間中の役割分担・当番について、搬入日・搬出日のタイムスケジュールについて又展示期間は説明者は置かない等詳細を決めて行きました。

あびこ型「地産地消」推進協議会も第44回のパネルで参加し前面のテーブル上に当協議会のリーフレットを置き周知・会員勧誘をしてみました。今回は開催中にも緊急事態宣言が発出し観覧者の人数は確かめられませんが、当番で会場を見回っていますと必ず何人かの人が見ていました、当協議会のリーフレットも置いておいたものが途中で無くなり追加しました（107枚が配布されました）。



発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齊藤徳剛

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）9：00～17：00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail [info@abiko-chisan.com](mailto:info@abiko-chisan.com) HP <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

